

湧き上がる気持ちを

そのまま広告へと落とし込む

3月11日に掲載された  
江崎グリコの広告

「おやつはあなたをちょっとだけ包み込むものだと信じているから／しまい込んだ心を癒してくれると信じているから／気を張っている人を甘やかしてくれるって信じているから／あなたの元にお菓子を笑顔を届けに行きます」。3月11日に掲載された江崎グリコの企業広告のコピー（一部）である。2010年12月、お菓子を積んで日本列島を縦断する活動として始まったグリコファンは、2011年5月からは東北地方を巡っている。そんなグリコファンの活動と「みんなに笑顔を届けたい」というグリコのメッセージを伝えるために書いた等身大のコピーが話題となった。コピーを手がけたのは大宮エリーさん。震災の後、広告づくりに携わる自分は何ができるか考えたとき、湧き上がった気持ちをベースに書いたものです。

ランナーとして広告づくりのノウハウを学んだ。一般的な広告づくりの枠にとらわれないストーリー性のある内容、低予算をアイデアで乗り切るトータルキャンペンなど一人で活動することが多く、在籍中一人代理店と呼ばれることも。一方、事務的な業務が苦手な「組織にいるとみんなに迷惑をかけてしまう」で、独立ではなくドロップアウトした。コピーライターでもありCMプランナーでもあり脚本やエッセー、短編も書く。映画や舞台の監督も手がけるし歌詞も書くし番組にも出る。自らの立ち位置について「看板の出ない何屋かわからない店のような感じですね。迷い込んで来た人が『広告はやっていますか？』とか、『脚本とか書けますか？』って恐る恐る尋ねてくれるような（笑）無茶ぶりも多いんですけど、舞台やってみますか？やってみませんか？じゃあやってみましょう、って言われて。斉藤和義さんのライブ演出とかも。みんなの無茶ぶりに震えながらも鍛えられてここまで来ました」。器用で不器用という矛盾したバランスは大宮さんらしさでもある。

等身大のコピーに  
共感の声

電通時代は新聞広告でコピーを書いたことがなく、

今回が初めて。ポエムのよろに書き連ねた言葉の中で、反響が大きかったのが「つらいときはつらいって言おう／励まして欲しいときは励まして欲しいって言おう／そばにいて欲しいときはお願いだからそばにいてって言おう」という部分。大宮さんはツイッターを通じて、読者のリアクションがウェブで拡散されていく状況を実感した。「好きなコピーの部分を写真に撮りアップしている人がいたり、新聞広告をそのまま額に入れて飾ったという人もいらしたんです。コピーの全文をウェブで読んだけど、そしてそれが欲しくなって新聞を買に行った、という人がたくさんいらして、びっくりしました。広告を一般の方が作品として買ってくれるなんて。新聞広告は新聞の広告にもなることに気づきました」

最後に大宮さんは「つらいときつらいと言っている？」との問いに「言えてないですねえ」と苦笑い。

「苦手です。うまく言えなくてもいいと自分に言いかけ、ありがとうございますという気持ちも、ありがたうを10回言えは、言わないよりは伝わるんじゃないかと、そんな感じですね……」

文/山下薫 写真/星野章



大宮エリーさん

1975年、大阪府生まれ、東京大学薬学部卒業。電通を経て、2006年フリーに。初監督作品「海でのなし」(主演:宮崎あおい、西島秀俊)は、公開5カ月のヒットを記録。これを機に、映画監督としての活動を開始する。またCMディレクター、CMプランナーとして数多くのテレビCM、広告キャンペーンを手がけている。映像作家としても活動しており、スピッツ、山崎まさよし、ケツメイシ、BoAなどのミュージックビデオを制作。テレビでは、ドラマ「木下部長とボク」(yt系)、「波乗りレストラン」(日本テレビ系)「Room Of King」(フジテレビ)の脚本と演出、「デカ黒川」鈴木、脚本、「サラリーマンNEO」脚本参加、舞台では「GOD DOCTOR」、「SINGER5」の作・演出。著書に『生きるコント』、『生きるコント2』、絵本『グミとさちこさん(画、荒井良二)』などがある。

〈オフィシャルホームページ〉http://ellie-office.com/  
〈大宮エリーさん最新情報〉○毎週水曜22:00~USTREAM番組「スナックエリー」配信中  
○毎週土曜夜9時連続ドラマ「三毛猫ホームズの推理」(嵐・相葉雅紀さん主演)の脚本を執筆中!

このコーナーに関するご意見・ご感想や、最近気になった新聞広告を教えてください。http://www.asahi.com/e-post/

インタビューの続きがご覧いただけます。http://adv.asahi.com/

朝日新聞 広告

検索



2012年3月11日付朝刊掲載

私たちが何ができるんだろ  
遠方に暮れたあの日  
落ち込んでしまったあの日  
哀しみに暮れたあの日  
でも、ふとお菓子を食べたことが、ほんとに笑顔になった  
おとなだって、おとなになれないときがある  
元気を出せないときがある  
そんなときは、おやつも食べて欲しいな  
そう思ってた、真つ赤なグリコファンは  
東京へ向かったのだった  
つらいときは、つらいって言う  
動かしちゃいけないときは、動かしちゃっていい  
そばにいて欲しいときは、  
お願いだからそばにいてって言おう  
おやつはあなたをちょっとだけ  
包み込むのだと信じているから  
しまい込んだ心を、癒してくれると信じているから  
気を張っている人を、甘やかしてくれるって信じているから  
あなたの元にお菓子を、笑顔を、届けに行きます  
新しい未来は、待つってやダメだ  
ばかりが、自分たちで、作る。